

難病 命つないだ予備電源

京都でシンポ 在宅の被災患者 体験談



東日本大震災と停電をALS患者らはどう生き延びたかという議題に患者本人も大勢詰めかけた(18日、京都市内)=川崎公太撮影

募金活動や救援物資の受付窓口などの支援情報
報、ボランティアの活動報告、応援メッセージをお寄せ下さい。住所、氏名、問い合わせ先電話番号を明記し、〒533-8251(住所不要)読売新聞大阪本社社会部震災掲示板係へ郵送するか、FAX(06-6336-1300-1)、電子メール(sakata@yonanuri.com)、インターネットなど)の電子情報をとして使用する」とあります。

東日本大震災 明日への 掲示板

このうち、千葉県から参加したALS患者の三島みゆきさん(38)は、大震災直後に停電で見舞われ、準備していたバッテリーで乗り切った体験を報告。「いつも電気が戻るのかとも不安だった」と振り返り、「車のバッテリーを電源にすることが可能で、日頃の練習も大切」とアドバイスした。福島県いわき市障害者支援団体職員、長谷川詩織さん(32)は「行政が、災害対策として予備のバッテリ

ーを準備することになった」と話していた。シンドromeは、全身の筋肉が衰える難病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者で、京都市の増田英明さん(68)が、余震の停電で、酸素吸引をしていた山形県尾花沢市の患者が亡くなつたことを聞き企画。ALS患者や支援者の計約230人が参加した。

和田毅さん(30)は、「これが同じ日本か」と強い衝撃を受けました。2005年の福岡県西方沖地震の際は、街に活気が失われている雰囲気を感じ、神経難病で入院館大教授は「行政は患者工呼吸器を使う京都市の青年浩美さん(28)は「電気が使えないなるなんて考えたこともなかった。経験者の話を聞くことができる、参考べきだ」と語った。

福岡木一ソフトバンクソフテック投手

大震災は車のラジオで知った。山形県の母親の実家は無事でしたが、車や家が流される映像に立たれることになつた」と話していた。ぬりました。山形県の母親のみました。今年6月、初の仙台遠征では、

この度、福島県の球

に立たれることになつた」と話していた。ぬりました。山形県の母親のみました。今年6月、初の仙台遠征では、

この度、福島県の球

声援

復興めざして

球児夢

陸前高田市が採用試験

震災で68人死亡・不明 倍率12.4倍

震災で正規職員の4分の1が死亡した。例年倍率は10倍程度だ。昨年は基幹産業の水産業が壊滅的な打撃を受けた。年例倍率は10倍程度だ。今回も一般事務職の試験に挑んだ。元福祉施設職員(39)の職員採用試験が行われた。市職員だった妻は震災から離れた場所で見つかっただ。自宅も流れ、仮設住宅で暮らす男性は「妻は死